

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年05月31日

計画の名称	安心・快適な、賑わいのあるコンパクトシティ型地域拠点の形成促進												
計画の期間	平成30年度 ~ 令和04年度 (5年間)										重点配分対象の該当		
交付対象	安城市												
計画の目標	平成22年度に策定した安城市都市計画マスタープランで定める「歩いて暮らせる集約型の市街地形成」、さらに平成25年度に策定した低炭素まちづくり計画で定める「都市の機能の集約を図るための基盤整備や都市機能の配置の適正化」をさらに推進すべく平成30年度に策定した第三次安城市都市計画マスタープランに基づき、本市4つの主要鉄道駅（JR安城駅、JR三河安城駅、名鉄新安城駅及び名鉄桜井駅）周辺を中心に、安心・快適な、賑わいのあるコンパクトシティ型地域拠点の形成促進を目標とし、都市機能や居住が高度に集積した地域拠点の形成を図り、第三次安城市都市計画マスタープランの目標である「みんなでまちをつくる！都市機能が便利に使える集約型都市づくり」の実現を目指す。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	2,932	A	2,854	B	0	C	78	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	2.66	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H30当初)	中間目標値	最終目標値 (R4末)
1	駅周辺における土地利用ポテンシャル（%） 空間賑わい創出を検討する地域における、現低未利用地で増進可能な居住・都市機能誘導床面積に対し、空間賑わい創出ポテンシャルエリア（土地区画整理事業や市街地再開発事業の適用検討により創出が期待される高度利用床面積を含む低未利用地）における居住・都市機能誘導床面積の伸び率 都市機能の集約効果	100%	%	107%
2	コミュニティバス利用者数（人/年） コミュニティバス利用者数 賑わい・人の集積	264500人/年	人/年	271000人/年
3	マチナカ居住の誘導（人/ha） マチナカ居住の誘導（人/ha） マチナカ居住の誘導（マチナカ居住誘導区域内の人口密度） 居住の集積	9896人/平方キロメートル	人/平方キロメートル	9936人/平方キロメートル
4	マチナカ拠点の形成（%） マチナカ拠点の形成（%） マチナカ拠点の形成（マチナカ拠点区域における安心・快適な、賑わいあふれるマチナカ拠点エリアカバー率） 都市機能の集積	640%	%	937%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H30	H31	R02	R03	R04				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	安城市	直接	安城市	-	-	空間再生賑わい創出事業 (新安城駅地域拠点地区)	空間賑わい創出検討 N=1地区	安城市						9		未策定	
	A13-002	市街地	一般	安城市	直接	安城市	-	-	安城桜井駅周辺特定土地 区画整理事業	都市再生区画整理(都市空間 形成型 A=93.8ha)	安城市						715	1.2	-	
	A13-003	市街地	一般	安城市	直接	安城市	-	-	安城南明治第一土地区画 整理事業	都市再生区画整理(都市空間 形成型 A=16.7ha)	安城市						1,912	1.2	-	
												小計						2,636		
道路事業	A01-004	街路	一般	安城市	直接	安城市	S街路	改築	(都)南安城横山線	道路改築 L=586m	安城市						210		-	
												小計					210			
住環境整備事業	A16-005	住宅	一般	安城市	直接	安城市	-	-	末広・花ノ木地区 住宅 市街地総合整備事業	密集市街地の整備 16.7ha	安城市						8		-	





事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
R4年度：事後評価を実施、R5年度：確定値によりフォローアップを実施 R4年11月：社会資本整備総合交付金評価検討会議における事後評価原案の審議 社会資本整備総合交付金評価委員会における事後評価原案の審議 R4年12月：事後評価原案の公表 R5年 3月：事後評価結果の公表 R5年 4月：フォローアップの実施	R4年度・R5年度
	公表の方法
	安城市ウェブサイトにより公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>【安心で快適な、コンパクトシティ型都市基盤の整備による都市機能の集約】JR安城駅周辺や名鉄桜井駅周辺における土地区画整理事業等を実施したことにより、安城南明治第一土地区画整理事業28街区に住・商・職・育、複合一体再開発プロジェクト「DENCITY」が完成するなど、都市機能が集約された「コンパクトで賑わいあふれる都市・地域拠点の形成」が促進された。</p> <p>【都市基盤の整備による居住誘導の推進】平成29年に開業した中心市街地拠点施設（愛称「アンフォーレ」）の活用、安全で快適な街路や公園の整備など、居住環境の改善が進むことにより、居住人口が増加し、住民の交流機会（イベント、活動団体）も活発化している。</p>
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<p>交付対象事業の目標達成への効果発現状況について、上記目標を補足・補完する指標で整理する。</p> <p>その他指標</p> <p>1. 安全・安心生活エリアカバー率（％）：【現況値】92.2％（H29年度末） 【評価値】99.8％（R4年度）（確定値） 土地区画整理事業及び住宅市街地総合整備事業により、緊急車両等の通行や安全な避難路が確保される道路の整備や老朽住宅等の除去が進み、防災機能が向上したと考えられる。</p> <p>2. 都市機能施設数：【現況値】672件（H30年度） 【評価値】708件（R4年度）（確定値） 安城桜井駅周辺特定土地区画整理事業や安城南明治第一土地区画整理事業などにより、道路や公園などの都市基盤が整備されたことにより、商業施設や医療施設、福祉施設などの都市機能施設の集積が進んだと考えられる。さらに、居住人口が増加したことにより、民間の都市機能施設の集積が促進されたと考えられる。</p> <p>3. 市民活動登録団体数（団体）：【現況値】327団体（H27年度） 【評価値】445団体（R4年度）（確定値） 安城桜井駅周辺特定土地区画整理事業や安城南明治第一土地区画整理事業などにより都市機能の集積や居住環境の向上が図られ、多様な世代の居住人口が増加したことにより、子どもや高齢者、障がい者の福祉等に関連した市民活動が活発化したと考えられる。</p>
特記事項（今後の方針等）	
<p>【目標の達成状況】 定量的指標1の駅周辺における土地利用ポテンシャル、定量的指標3のマチナカ居住の誘導が達成され、目標である「安心・快適な、賑わいのあるコンパクトシティ型地域拠点の形成促進」に向けて、事業が進んでいるといえる。</p> <p>【今後の課題】 引き続きコンパクトシティ型地域拠点の形成に向けた基盤整備を継続し、居住の誘導とともに、都市機能の維持・確保、地域の防災性や安全性の向上を図っていく必要がある。</p> <p>【今後の方針】 安城桜井駅周辺、安城南明治第一地区および三河安城駅周辺等において、土地区画整理事業を推進するとともに、土地区画整理事業と街路事業、公園整備事業等を一体的に実施することで、都市機能や居住が高度に集積した安全で快適なコンパクトシティの形成を図る。</p>	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	目標値と実績値に差が出た要因
1	目標値 / 実績値	空間賑わい創出検討地域で、現低未利用地で増進可能な居住・都市機能誘導床面積に対し、空間賑わい創出ポテンシャルエリア（土地区画整理事業などの適用検討により創出が期待される高度利用床面積を含む低未利用地）における居住・都市機能誘導床面積伸び率
	最終目標値	107%
	最終実績値	108%
2	コミュニティバス利用者数	賑わい・人の集積
	最終目標値	271000人 / 年
	最終実績値	232364人 / 年
3	マチナカ居住の誘導（マチナカ居住誘導区域内の人口密度）	居住の集積
	最終目標値	9936人 / 平方キロメートル
	最終実績値	10334人 / 平方キロメートル
4	マチナカ拠点の形成（マチナカ拠点区域における安心・快適な、賑わいあふれるマチナカ拠点エリアカバー率）	都市機能の集積
	最終目標値	937‰
	最終実績値	905‰